

紙版 ハコブネ×ブックス vol.33

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



マスクと黒板

作者 濱野京子
出版社 講談社
発行 2022年4月
ISBN 978-4065273364

review



非常事態宣言下での臨時休校が明けて再開した学校で話題になっていたのは、誰が描いたかわからない**黒板アート**でした。移動式黒板に描かれた、新一年生に向けた「コロナに負けるな」のメッセージを添えられた見事な絵。美術部に所属する中学二年生の男子、輝(てる)は、この絵を誰が描いたのかが気にかかります。目立つことが嫌いで**コロナ禍以前からマスクを常用**していた輝。いたって温度と熱量が低い輝ですが、黒板アートをめぐる生徒たちの思惑や態度を見極めていく中で、**コロナ禍での自粛生活へ怒りや閉塞感**を自分にも感じとっていきます。二〇二〇年のあの状況を生きた多くの子どもたちの心の動きを捉えながら、自分に才能がないことに悩む輝の鬱屈や葛藤が掛け算されていく、**あの時だからこそ閃いた**思春期の物語が展開していきます。



風の神送れよ

作者 熊谷千世子
出版社 小峰書店
発行 2021年10月
ISBN 978-4338308076

review



長野県の人口二百人程度の小さな集落。この村には「コト八日」という、子どもたちだけで**疫病退散を祈願**する四百年続く伝統行事があります。コロナ禍が始まった二〇二〇年、この行事は特別な意味を持ち、大人たちの期待を集めていました。この村に住む小学六年生の男子、優斗(ゆうと)は、今年、子どもたちのリーダーを補佐する役割を与えられています。**神さまが本当に在るならコロナなんて流行らないはずだ**と優斗は内心、この行事に疑念を抱いています。まだ周囲には感染者もいないのに、親の仕事が立ち行かなくなってしまうったり、行動が制限される不自由な状況に不満を募らせる子どもたち。かつて**疫病の前に為す術もなかった先祖**たちはこの行事に何を託してきたのか。コロナ禍だからこそ見つけ直される行事の意義。本気の神頼みに真摯に向き合う子どもたちの覚悟が鮮やかに描かれます。

特集
コロナ時代の
新型児童文学



中学年向けの物語にもコロナ禍の影響は描かれています。小学四年生の男子、大斗(たいと)のタクシー運転手を営む父親は、**コロナ感染を恐れるあまり心**を病み、働けなくなり。父親を励ましたため故郷の料理を作ろうと試みる大斗の物語は、**コロナ禍に翻弄**されている大人たちの姿も浮き彫りにしていきます。



シェフでいこうぜ!
(上條さなえ)
国土社 2021年



Twitter
連携して
います。

@tomostretch

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.33

2022年12月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス(非営利)」を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。

特集

コロナ時代の新型児童文学

新型コロナウイルス感染症が世界を席巻しはじめたのは二〇二〇年初頭のことです。日本でも感染流行を防止するために**非常事態宣言**が布告され、店舗は営業を自粛し、学校も臨時休校で余儀なくされました。再開後の学校でも子どもたちは多くの行動制限を受け、学校行事は中止になり、人との接触ができなくなるなど、これまでのような学校生活を送れなくなりました。この**変わってしまった世界**で子どもたちは何を感じていたのか。今回、紹介する作品はいずれも二〇二〇年の最初のコロナ禍に暮らす子どもたちを描いた物語です。**新しい日常**の中で戸惑いながら、不安や怒り、閉塞感に苛まれている彼らは、それでもこれまで気づけなかったものに気づき、**世界を再発見**していきます。コロナで多くのものが失われてしまった世界。ここから未来へと希望を繋いでいく子どもたちを描く、**新しい児童文学**が登場しています。



マスク越しのおはよう

作者 山本悦子
出版社 講談社
発行 2022年9月
ISBN 978-4065283677

review



同じ教室で過ごしている中学二年生、五人それぞれを主人公にした連作短編は、**コロナ禍で変わってしまった世界**を、新たな自覚を持って生きる子どもたちの群像を描きだします。小学生の時からマスク依存症だった女子、千里子(ちりこ)は、全員マスク着用となった学校で、**別の世界**にきたような不思議な感覚を抱きます。自分の顔を出すことにこだわりフェイスシールドを着用する男子、麦(むぎ)。家庭の事情で布製の豹柄のマスクを着けている強面の女子、芹那(せりな)。不登校を続けていた女子、沙織(さおり)は、再開した学校に、髪型を変えマスクとメガネで今までは**違う自分**を演じて再登場します。そして自分以外の家族全員が感染し、**濃厚接触者**として自宅待機する女子、美咲(みさき)。それぞれの物語が関わりあい、輻輳するハーモニーが魅力的です。



スクラッチ

作者 歌代朝
出版社 あかね書房
発行 2022年6月
ISBN 978-4251073129

review



学校行事やスポーツの全国大会が**コロナの感染防止のために中止**になった二〇二〇年の夏。中学三年生で女子バレー部のエースである鈴音(すずね)はこの状況に怒りを募らせていました。**最新の活躍の機会を奪われた**悔しさを、幼なじみで美術部の男子、千曉(ちあき)にぶつけるものの、彼もまた参加する美術展が**入選作を選ばなくなった形式変更**に戸惑っていました。どうすれば入選できるかだけを考えて絵を描いていた自分に気づいた千曉。そこから彼は、自分の表現を突きつめていきます。自分の絵を黒く塗り潰し、その表面を削ることで下絵の色彩を浮かび上がらせる**スクラッチ技法**で、千曉は鈴音の絵を描きはじめます。コロナに黒く塗り潰された夏。予想外の事態に直面しながらも新たな世界を見つけ出していく子どもたちの姿が物語の中に**削り出されて**いきます。